

国 語 〔1年B組〕	こえに だして よもう 「くじらぐも」 1年B組 ぼくたち・わたしたちの くじらぐも物語をつくろう!!	大谷 真喜子
---------------	--------------------------------------------------------	--------

1. 単元について

(1) 単元設定の理由

① 1年B組のめざす学習文化とかかわって

みんなが主人公の1B物語を作ろう

一人ひとりの☆キラリ☆

みんなの☆キラリ☆を大切にしたい！

1年B組の学習文化のねらいを上記のように設定した。

これは、日々の学習を通しての“成長と感動が実感できるストーリー作り”を意味し、この物語を、「確かな学力」「基礎学力」にもつながる国語科の学習を核に実践追求することにしようと考えた。そのためにも、「和やかで意欲的に学習する集団作り」「自分の考えや思いを素直に綴る『きらりノート』」「伝え合う力を育てるため、話す・聞く・読む・書くの機会を多く設ける」「授業展開において、練り合いを取り入れ、伝え合い・共鳴し合う国語科学習に努める」の4点を意識した意味と内容のある学習文化を作りたいと考えた。

② 1年B組の子どもたち

学校大好き、元気っ子集団が1Bであり、新しいことに興味津々で目を輝かせ学習する。

4月からクイズ付き読み聞かせを行っているが、子どもたちは喜び静かに聞き入っている。作者を紹介すると、その作者の別作品を見つけて読んだり、気に入った内容を全文視写したりする姿が見られだした。説明文「いろいろなくちばし」の学習では、「いろいろな〇〇」を考えだす子、図鑑で調べ始める子も多く見られた。このように個人差もあるが、様々な領域に興味・関心を強く持ち、学習を楽しむことのできる集団が本学級の子どもたちである。

③ 1年B組がめざす「読む力」の育て

読解力（国語力）を高める音読の有効性はあちこちで確認されている。したがって1Bでは、低学年の読解力を育てるポイントを大切にしつつ、明瞭に読む、語や文としてまとまりを大切に読む、内容や響きを意識して読むを心がけ、入学当初より音読に力を入れてきた。

初めて出会った物語『はなのみち』では、場面ごとの『挿絵』から想像を膨らませると共に、初めて音読大会や群読にチャレンジし、読むことの楽しさに触れた。『おむすびころりん』では、ねずみの声の大きさのレベルを考え、動作化も取り入れた。繰り返しが多くテンポのよいリズムカルな文章を暗唱しだす子どもが続々と現われた。音読大会時には、おむすびやこづちなどの小道具を準備してきたり、楽器を効果的に活用したりして、読むことにずいぶん楽しみを感じるようになった。『大きなかぶ』でも動作化をしたり繰り返しの表現や独特のリズムのおもしろさを感じ取ったりして、読むことを楽しんだ。単元終末に「1年B組44人で引っぱって（先生の先生も含む）の授業をしたことで、みんなで表現する楽しさも体得することができた。このように「読む力」が確実に身につく、高まるよう、意図的に継続的な音読指導に力を入れている。

④ 1年B組と「くじらぐも」の世界とのかかわり

「雲に乗りたい!」「あの雲、綿菓子みたい!」、子どもを空想（ファンタジー）の世界に誘うのが青空に浮かぶ白い雲。『くじらぐも』は、そんな世界を描いている魅力一杯の教材である。

子どもとくじらの織りなす現実と想像の世界でのやりとりは、本好き読書好き、想像力のある本学級の子どもたちにピッタリの内容であると感じた。

本教材に秘められた、場面や様子の理解しやすさ、生き生きとした会話文、想像の世界での遊びやすさは、第一学年国語科で身につけたい読解力を高めることとなり、学習目標『想像して読む』『声に出して読む』『考えを書く』の達成につながるはずであると感じた。

⑤ 「意味と内容」がひろがる学び

この教材の登場人物は、1年2組の子どもたちであるが、1年B組の子どもたちは、この物語をまさに自分たちの物語ととらえ主人公になりきって読み深めることだろうと感じた。みんなで手をつなぎ、愛唱歌さえ歌える。それほど『くじらぐも』は、入学当初からの1B物語と酷似していたのである。

初発の漠然としたねらいへの迫りは、動作化や言葉の模倣、豊かに想像すると言った学習の積み重ねの中で深い学習へと変化する。互いに物語を楽しんだり、互いの想像を聞き合い劇化し表現したりすることは、「めざす学習文化」を高揚させながら、“意味と内容”がひろがる学びの創造”に結びつくものと考えた。

また、「読んでらうこと」から「自ら読むこと」への学習体験は、作品の世界を想像する楽しさや味わい深さを感じさせ無意識の内に学習主体の子どもの内面に“意味と内容”がひろがる学びの創造”を定着化させると考えた。以上①～⑤の理由により単元を設定した。

(2) 単元目標

◎子どもたちとくじらぐもの様子・雲の上での様子などについて豊かに想像して読むことが

- できる。
- ◎語や文としてのまとまりや話の内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読むことができる。 (読むことウ)
- ◎楽しく“自分達のくじらぐも劇”をすることで、おもいきり生き生きと『くじらぐも』の世界に浸ることができる。 (読むことエ)
- ◎自分の考えを書き、積極的に友達と伝え合おうとすることができる。 (意欲・関心・態度)
- (書くことウ)

(3) 単元計画《全17時間》

第一次(3)	「くじらぐも」に出会おう！
1時	いろんな形をした雲を見て、雲に名前をつけたり想像を広げたりする。
2時	「くじらぐも」を読み、心に残ったことについて書く。(初発の感想)
3時	感想を発表し合い、学習の見通しを持つ。
第二次(8)	「くじらぐも」の世界に浸ろう！
1時	大まかな話の展開をつかむ。
2時	新出漢字・意味のわからない言葉を理解する。
3時	1の場面：子どもたちとくじらぐもの出会い * 3時～7時は本文を読み取る。
4時	2の場面：子どもたちとくじらぐものやりとり
5時	3の場面：くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちと応援するくじらぐも
6時	4の場面：くじらぐもに乗って旅をする1年2組のみんな
7時	5の場面：子どもたちとくじらぐものお別れ (本時)
8時	まとめの感想を書き、初発の感想と比べる。自分の読み取り方の変化を発表する。
第三次(6)	1年B組 ぼくたち・わたしたちの くじらぐも物語をつくろう!! (劇化)
1時	今まで学習したことを生かして役割・セリフを決める。
2時～4時	お家の人が感動してくれるような劇になるように練習をする。
5時	おうちの人に『1B くじらぐも物語』を観てもらおう！
6時	劇をした感想を書く。

発展

- * 中川李枝子さんの他の作品を読む。
- * 自分の気に入った雲から想像してお話を作る。
- * ファンタジー作品を紹介し合う。

(4) 国語科テーマ「初発でつかみ、総合的に読む力を育てる ～関連して伝え合うことによる自己変革を意識させながら～」にかかわって

学校研究テーマに至る国語科研究テーマ及び、低学年児童につける初読力(国語科提案を参照)を、本教材で求める場合、次の点を大切にしたいと考えた。

- ①本単元の学習目標の一つを、「楽しく“1 B くじらぐも劇”をすることで、おもいきり生き生きと『くじらぐも』の世界に浸ることができる。」とし、保護者の方に劇を参観して頂くことにした。劇化につながる読みは、子どもたちの学習に深みをもたらすと考えたからである。
- ②外に出て白い雲を柔らかな気分でながめる等の実体験を導入部で計る。
- ③場面学習では読み取りを深めるため、一人ひとりに思いや考えをもって臨ませる。それは、自ら発言をする、友達の発言を聞く、発言を比較しての書きたしや修正、根拠を上げての評価に意を注ぐ学習になるようにである。即ち、伝え合い共鳴し合う学習を通しての自己変革につながればとの考えからである。どの子も1時間の授業の初めと終わりで自分の中にどんな変革があったかに気付けるようにするために、くじらぐもや1年2組の子どもたちに手紙を書く作業を取り入れる。教室にポストを用意し、書く意欲を高める工夫もする。
- ④その他、学級に中川李枝子図書コーナーの設置、上記発展学習等も試みる。本単元で本を読む楽しさを経験した子どもたちが、読書に親しんでいくように発展させたいと考えたからである。

2. 単元の考察

(1) 互いのまなざしが共鳴する実際の姿は

互いのまなざしが共鳴する実際の姿は、一時間一時間の授業(特に場面を読み深めていった次の5時間の授業)に、また劇化していく過程で、そして、劇本番で見ることができた。

ここでは具体的な例として、2の場面の授業での主な発問と子どもたちの反応の一部を紹介することとする。

テーマ『子どもたちやくじらは、どうしてさそいあったのでしょうか?』

1: 子どもたちやくじらぐもは、どうしてさそい合ったのですか?

- 1: 子どもたち
- ・子どもたちは、くじらぐもにのりて来てほしかった。・学校の楽しさを教えてあげたいと思っている。・一緒に遊びたい。・一緒に体操をしたら楽しいから。
- くじらぐも
- ・くじらは、空に来てほしかった。・空の楽しさを子どもたちに知ってほしかった。・一緒に遊びたいと思っている。・一緒にあちこち旅をしたいと思っている。

子どもたち・くじらぐも

・それぞれに自分の方に来てほしいと思っている。

I:「それぞれに自分の方に来てほしい」「学校の楽しさ・空の楽しさを教えた」という意見が出ました。ここをもう少し想像していこう。学校にはどんな楽しいことがあるの?

C:「みんながいる。一緒に遊ぶ。給食もおいしい。勉強するのも楽しい。みんなで体操するのもおもしろい。いろんなお部屋がある。プールで泳がせてあげたい。」

I: 空にはどんな楽しいことがあるの?

・ふわふわして気持ちがいい。空にもすべり台があるかも。・附属小みたいにプレイランドがあって、子どもたちをそこで遊ばせてあげたいんじゃない。・色々な所に行ける。

・きれいな虹も架かってる。・もしかしらぐもには、子どもがいて見せたいのかも。・つけたしで、空にはくじらぐもの家族がいるんじゃないかな。会わせたいのかも。

I: 今、みんなが話し合ったようにそれぞれの所に来てもらえるようにどんな風に誘ったらいいのかな? ~「おうい」「ここへおいでよう。」について~

C:「子どもたちは、こっちへ来てという気持ちで、空に届くように「おうい。」と言う。・そうそうつけたしで、ゆっくり大きな声でくじらぐもに届くように言う。

・こんなふうに言うといいんじゃないかな、やってみていい?「おうい。ここへおいでよう。学校は楽しいよ。」

・〇〇ちゃんの誘い方がいい。ほくは、こんなふうにもうちょっと大きな声でゆっくりと「おうい。」って。

・くじらぐもは、低い声で子どもたちに届くように言う。・地面につくぐらい大きな声。・くじらの方が大きいから、大きな声で言う方がいい。

・みんなの意見を聞いて△△君や◇◇さんのを合わせて低くて太い声で言った方がいいと思った。

I: 子どもたち・くじらぐもになりきって読んでみようね。

C:「やったー!!」・くじらになりたい。・先生、くじらは高い所にいた方がいいんじゃないかな。

上記の話し合いで子どもたちは活発に自分の意見を述べる事ができた。私が、子どもの「それぞれのところへ」という意見をとらえて全体に投げかけた事で、さらに子どもたちやくじらぐもの気持ちを想像し、生き生きと話し合う子どもたちの姿が見られた。

子どもがくじらを招く、くじらが子どもを招く学習において、招きたい理由を話す子どもたちの姿、学校生活での楽しいことをくじらに語る姿には、一人ひとりの瞳の輝きが見られた。また、「おうい。」「ここへおいでよう。」と呼びかける時の声の大きさ、呼びかけ方を考えた時には、子どもたち同士の具体的なやりとりがあり、まさにめざしていた“まなざしが共鳴している姿”があったと思う。子どもたちは話し合うことで、教材の一語・一文を大切に読むようになっていったのである。本授業の終末に、二人の子どもが前に出て暗唱を披露してくれた。「おうい。」「ここへおいでよう。」「よしきた。くものくじらにとびのろう。」の会話の部分はもちろん、地の文も様子を思い浮かべて読む姿に感心させられた。他の子どもたちも友達の発表に刺激され次々に自分も暗唱をしたいと手が挙がった。子どもたちは互いに認め合い高め合うようになっていった。

(2) 子どもが意味と内容をひろげた場面

子どもたちは、休憩時間に「先生、金魚ぐもを発見したよ〜!!」と嬉しそうに言いに来たり、きりりノートには、生活の中でくじらぐもの話を書いてきたり、授業以外のところでも自主的に想像を広げるようになり、言葉で表現することを楽しむようになった。子どもが意味と内容をひろげた場面は私の気付いた範囲でも色々あるが、劇化に取り組んだことで、単元設定理由⑤が現実のものとなったことをご紹介させていただくこととする。

☆会話文・地の文の読みは、様子が目に浮かぶぐらいの読みに激変。それぞれの思いが新たなセリフとなって加わっていった。

☆くじらぐもに飛び乗ろうとする動作化では、子どもたちは自然と手をつなぎ、なりきってジャンプ。3回のジャンプの高低・セリフの声の大小の工夫などは、自主的な話し合いで決めていった。

☆くじらぐもに乗って旅したい所を一人ひとりが堂々と語った。それぞれの思いを理由もつけて発表したことで互いの想像を聞き合うことができ、「めざす学習文化」の高揚を感じた。

☆くじらぐもの上での歌はやはり1B愛唱歌『YUME びより』!踊りながら歌う姿も。

☆「さようなら。」に込められた1年2組の子どもたち・くじらぐもの気持ちを豊かに想像し、1年B組40人の思いを込めて「さようなら」をした。

劇化という学習体験は、作品の世界を想像する楽しさや味わい深さを感じさせ、無意識の内に学習主体の子どもの内面に“「意味と内容」がひろがる学びの創造”を定着化させると実感した。

子どもたちは、意味ある想像の翼を広げていったのである。

子どもたちの感想より

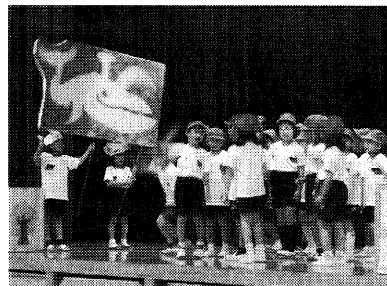
◇くじらぐものおはなしが終わったらいやだな!げきは、とてもとてもみんなひとりひとりが、かがやいていました(o)

◇みんなのがってくれたからくじらぐもはうれしいとおもう。おひるになったからくじらぐもとみんなのこころのなかはさびしいとおもう。こんどあったとき、みんないっぱいあそべるといいな。くじらぐもさびしいとおもう。いつでもくじらぐもとみんなのこころはつながっているから。こんどは1ねんBくみがのれたらいいな。

◇わたしは、くじらぐもが大好きになりました。さいしょはちょっとだけだったけどいまはもっと大好きになりました。さようならをしたときなみだがでました。かなしかったです。またあえたらいいなとおもいます。ぜったいにあえます。

◇あのね、わたしはくじらぐもが大好きだよ。だって、くじらぐも1ねん2くみの子どもたちがものすごいえががでなかよしたからです。げきのときくじらぐもが空から見て、見ながら手がみをかいてたとおもいます。くじらぐもとおわかれしたくないな。ずっとずっとこのくじらぐものおへんきょうをしたいな。

◇ほくは、くじらぐもが大好きです。それは、くじらぐものげきをしたら、またこんどあつてぜったいあそぼうね。ほんとにまたこんどぜったいいっしょにほくとあそぼうね。



保護者の方からのメッセージより

- 日曜参観では、とても心に響く授業を見せていただきありがとうございました。体育館に響き渡るみんなの声、感動しました!!限られた時間の中でよくあれだけの立派な劇ができあがったこと、先生、1Bのみんなの努力に感心させられました。一人ひとりみんなが主役、それぞれ自分の役割を精一杯果たし『くじらぐも』への気持ちがたくさん伝わってきました。そして最後には『くじらぐも』に乗って行きたい所を発表した時、個性あふれる様々な思いをみんながきちんと伝えて「みんなスゴイ!!」と思いました。本当に素晴らしいかったです。こんなに残るステキな参観をさせていただき、1Bの一員であれたことに感謝です。ありがとうございました。
- スマセン演ができました。あまりにも子どもたちが一生懸命がんばって、目を輝かせている様子、そして私たち大人 もいろいろな情景が頭に浮かぶぐらいほんと感動しました。くじらぐもさんもあたたかくみんなを見守ってくれますね。
- 一年生の子ども達が、あの広い体育館いっぱいにはつきりとセリフを届けられるということに驚き、感動しました。日々、言葉を大切にご指導いただいた結果だと感謝しています。
- 先日の日曜参観はとてもすばらしい授業でした。くじらぐもを劇にしようと言った〇〇君の案はすごい!!と思っていたのですが、他の40人の子ども達もとても☆キラキラと輝いていました。一人一人のお顔の表情はとてもステキでした。この日は、私にとって心癒された一日でした。ありがとうございました。
- 今回の参観では、子どもたちのひたむきにがんばる姿は、一年生当初のけなげでかわいらしいという印象ではなく、たくましくうっばにうつりました。また一つ皮を脱いで成長、前進した感を感じました。この『くじらぐも』の教材を通して、1年2組のみんなは、何度か見上げたのですね。きり通信では、本当にたくさんの素直な感性に心があたまりました。『くじらぐも』がこんなに子どもたちの実生活に入り込むなんておどろきです。今更ながら、読書の大切さを実感します。
- 日曜参観、本当に有り難うございました。本当にあれだけの工夫と演出で、すばらしいくじらぐもを見る事ができ、よかったです。毎日、帰ってから「宿題をする!」と言って一人部屋を閉めてセリフや動きの練習をしていました。又、おじいちゃん、おばあちゃんにも会うたびに本読みや暗唱を聞いてもらっていたので、「ぜひ、見に行きたい!!」と行かせていただきました。上手だったね〜とほめられて、また満足げな嬉しいような顔が印象的でした。

3. 成果と課題

子どもたちは学習が進むごとにどんどんくじらぐもを大好きになり、豊かに想像し、音読を楽しんだ。今でも“くじらぐも”という言葉を目にするだけでみんなの顔は明るい笑顔になる。一連の授業を終える日の子どもたちの落胆ぶりはこちらの想像をはるかに超えていた。「さようならをしたくない。」と言う思いからであった。

単元導入に“くものスライドショー”(本校研究広報誌 LIVE 創 REATOR NO. 29 に紹介)を行ったことは、子どもたちに想像の楽しさを感じさせるよいきっかけとなった。

読みを深めるべく、二次の5つの場面学習で個人カルテを作成。(事前に書いた子どもの考えをまとめたもの)これにより積極的に発表できない子どもの考えを知ることができてよかった。子どもにとっても事前に自らの考えをまとめたことは、自信を持って発表することに繋がった。話し合いの学習は、自主的に「話す・聞く・反応する」子どもを育てることができた。このような学習形態は、本学級の子どもたちには大変新鮮であり、楽しかったようだ。

単なる掲示物にしない“くじらぐも”(LIVE 創 REATOR NO. 29 に紹介)を考案し、活用したことも成果に繋がったと思う。研究会での授業は、『楽しかったくじらぐもとの旅を終え、「さようなら。」を言った時の子どもたち・くじらぐもの心の中を考えよう。』をテーマに話合った。終末に子どもたちが愛唱歌を歌う中、くじらぐもに乗っていた一人ひとりの絵を外していった。「〇〇君、さようなら。」「外さないで。」「もっと乗っていたい。」「さようならくじらぐも。ありがとう。」子どもたちは、自らを描いた絵がくものくじらから降りる瞬間「さようなら」を実感することとなった。

劇化によって40人一人ひとりが主人公となり、声を出して読むことを大変意識することとなった。子どもたちは、自然と自分の声を聞き手に伝えようとし、単元目標の「語や文としてのまとまりや話の内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読むことができる。」を達成していったのである。『くじらぐもポスト・1年2組の子どもたちポスト』『中川季枝子さん作品の図書コーナー設置』『物語の展開がわかる挿絵の掲示物』等教室環境の工夫、日常の読書タイムの取り組みも子どもたちの学習意欲を高めることとなった。

劇を参観された保護者の方が感動してくださったこと、またその心が作者中川季枝子さんに伝わり直筆のお葉書をいただいたことは、子どもたちにとって忘れられない思い出となるだろう。

今も子どもたちは、中川季枝子さんの作品を読んで色んな発見をしている。「総合的に読む力」は、読書習慣を身に付けることが大切だと私は考えている。そのためにも本単元のように子どもたちが物語を好きになる・心に残るような学習が展開されることが大切であると思う。自ら本に手を伸ばす子どもたちをめざし、今後も魅力のある授業を心がけていきたいと思う。

最後に、発展として子どもたちが制作した本の中から1冊を紹介する。

くじらぐも

二じかん目のことです。
一年ぶりの子どもたちがひらねを
と、空に大きなくじらがあらわれ
まっくらくくじらぐもです。
「ぐうすか、ぐうすか」
くじらぐもはじまりました。おな
りへこんだりました。
みんながゆめを見るときくじらぐも
みんながくじらぐもといっしょにお
べるゆめを見たら、くじらぐもいっ
どうをたへるゆめを見ました。
みんなが、「おいしいね。」という
くじらぐも「おいしいね。」とい
「あのくじらぐもはきつとくじん
とつぜんくものくじらぐもがふ
た。みんなは、雨のおとをき
雨はくじらぐものしおでした。
「おい、くじらぐも。もつと
くじらぐもは、よし、もつと雨を
といって、たくさん雨をふ
「ザザザ」とおとをたてて、学
ぼにも山にも川にもふちました。
お日さまがでてきました。大きな
じができました。くろくくじらぐもは、にじ
ろくくじらぐもになりました。
みんなは「わーきれい。」とき
「また雨をふらせてね。」とみんながいう
にじいろのくじらぐもは「いよいよまたくる
とにっこりわらってこたえました。